

3-2 今後に向けて

まずは思春期の家庭教育支援事業に関する調査研究の成果として作成した、「学校で保護者を対象にした学びの機会を企画する方へ！」のリーフレットを有効活用していきたいと考えている。学校等へ配付するだけに留まらず、当センターで実施する研修や会議で配付するとともに説明を入れる時間を加えたり、実際に「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」を体験してもらったりするなど、教員に直接働きかけることで、認知度を上げ、理解を深め、活用意欲を高めることにつなげたいと考えている。特に、学校行事や教育課程の業務に携わる、20年目教職員や教務主任、教頭研修での実施を計画している。

また、PTAでリーダー的立場にある方が一堂に介する高等学校PTA連合会総会といった機会を、直接働きかけられる貴重な場と捉え、当日配付資料の一つにリーフレットを入れたり、調査研究での実践事例を中心に紹介する時間を設けたりしたいと考えている。

さらに、当センターで実施する研修や会議等で説明をする際は、研究会議において研究協力委員からいただいた貴重な意見や考えをしっかりと押さえ、伝えていきたいと思う。特に、「進学や就職で親元を離れる前に、保護者が子どもに大事なことを語れる最終段階が高校時代であるからこそ、保護者が子どもとの関わり方を学べる親学習プログラムを体験することは重要である。」、「親学習の基本は、他人の話を聞いて、それぞれの考えの違いを知ることであるから、話したり、情報交換したりすることで生き方を学べる親学習プログラムは、絶対に必要なこと。」などは、「親学習プログラム」の必要性を訴えるのに、大変重要かつ有効な言葉である。

今後は、県立学校の教員やPTAでリーダー的立場にある方への直接的な働きかけに重点を置きながら、活用促進に向けて着実に取り組んでいきたい。そして、「子どもが高校生にもなって、親学習プログラムって必要なの？」といった質問が出てきたとしても、この調査研究で得られた成果等を示すことでしっかり対応し、さらには「親学習プログラム」そのものの関心を高め、家庭教育支援の充実に努めて参りたい。